

⑧「世界の中心で〇〇とわけな」

「一段落目」世界の中心で叫びたいことは何か

(例)

世界の中心がどこのことなのかよくわかりませんが、そこで叫びたいことは、きつとそこでなければ叫べないようなことなんだと思います。または、世界の中心で叫ぶことに意義があるようなことでしょう。はつきり言ってそんなデカイことは、中学生の僕には思いつきません。よって、単純に今一番求めていることについて叫びたいと思います。それは、「受験などきえてしまえ」です。

「二段落目」叫びたい内容について説明する

(例)

なぜ「受験など消えてしまえ」なのかと言うと、単純なことですが、受験勉強が嫌だからです。僕は、勉強については必ずしも嫌いとは言いません。テストでいい点が取れる教科については、テストが返されると思わずほくそ笑んでしまう気持ち悪い自分がいますし、歴史など、授業は嫌いだけど知識を覚えることについては結構食欲な自分がいます。しかし、受験は嫌です。失敗したら高校に行けないかもしれないと思うと、正直なところ結構恐ろしいです。受験が好きなのがいるとは思えませんが、偏差値が上がると喜ぶ人たちはいます。僕も偏差値が上がればうれしいですが、最近はずがりがりつばなしです。高校に行けないということはないかもしれませんが、しょうもないところへは行きたくありません。自分の力次第でリアルに運命が決まってしまうというのは、避けて通れるものなら通りたいものです。

「三段落目」叫ぶことができたら、その後どうする

(例)

で、世界の中心に行ったら、「受験など消えてしまえ」と叫びたいわけですが、叫んだところでどうしようもないということとはよく分かっています。だから、受験に向かう覚悟を、僕もそろそろ決めなければならぬと思っています。でも、覚悟を決めるためにも、一度思いつきり叫んでみたい気がします。そうすれば、英単語や、理科や社会の用語や、数学の公式など、覚えていくための気合が入られるような気がするわけです。世界の中心がどこにあるかは知りませんが、どこでもいいから大きな声で叫べたら、そんなに意味はないかもしれないけど、少し気持ちはすっきりするかなと思います。

「四段落目」結論・まとめ

(例)

叫んだって目の前の現実は何も変わらないわけですが、自分の気持ちをしっかりと決めることはできるかもしれません。世界の中心には行けなくても、受験モードに入るため、どこかで一度叫んでやろうと思います。「受験など消えてしまえ」と。